

〈参考資料〉

1. スマホで聴く音楽に難聴リスク 「音量下げて」WHO が警告

WHO と ITU(国際電気通信連合)、若者の聴力障が 5 を予防するための国際規格発行

12～35 歳の人々の 50%近く、すなわち 11 億人の若者が、パーソナルオーディオ機器を通じた大音量の音楽を長時間聴くことによる聴覚障害のリスクに曝されています。WHO と ITU (国際電気通信連合) は 2019 年 2 月 12 日、国際耳の日 (3 月 3 日)に先立ち、聴覚障害予防のため、スマートフォンなどを含む機器の製造と使用に関する新しい国際規格を発行しました。

WHO のテドロス・アダノム事務局長は「一度失った聴力は戻らないということを理解しなければならない。この指針は若者を守るのに大いに役立つだろう」とコメントしています。

中・高所得国の 12～35 才年齢層では、約 50%がオーディオで、約 40%が娯楽施設で危険レベルの音響に晒されており、85 デシベルで 8 時間、100 デシベルで 15 分を超えると危険だとして、音量を下げたり、連続して聴かないよう休憩をとったり、日常スマホなどオーディオ使用を 1 日 1 時間までに制限することなどが勧告されています。

WHO 日本協会

https://www.japan-who.or.jp/event/2019/AUTO_UPDATE/1902-4.html

2. 認知症施策推進総合戦略

～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(新オレンジプラン)」

2014 年 11 月に行われた認知症サミット日本後継イベントにおいて、内閣総理大臣より厚生労働大臣に対して、認知症施策を加速させるための戦略の策定について指示。認知症施策を加速させるための戦略の策定として、厚生労働省を含む関係省庁と共同して新たな戦略の検討を進め「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(新オレンジプラン)」が取りまとめられ、2015 年に改めて策定・公表された認知症に対する国の施策です。

◆認知症の危険因子とは

「加齢、遺伝性のもの、高血圧、糖尿病、喫煙、頭部外傷、難聴など」を認知症発症の危険因子に上げており、難聴も認知症発症に影響を及ぼすことが示されています。一方で認知症の発症予防については、「運動、口腔に係る機能の向上、栄養改善、社会交流、趣味活動など、日常生活における 取組み」が大切であるとしており、難聴の早期診断ならびに補聴器を使うことによる 早期対応が、認知機能低下の予防につながる可能性があります。

高齢者の4人に1人は認知症または予備軍と言われている現在。政府は2025年には、認知症患者が約700万人（約5人に1人）まで増加するとの推計を発表しています。

◆「難聴になると認知症のリスクが高くなる」

聴力の低下は、会話を理解するために聞き取りにかなり集中しなければならず、脳に余分な負担をかけることになり、脳の認知機能の負荷となることで、社会的孤立やうつ病につながり、脳の萎縮が加速することが確認されています。また加齢による聴力の衰えは40歳前後からゆっくりと進行するといわれているために本人が気づかないことも多くあります。

3. JapanTrak2018・JapanTrak2015

調査主体：一般社団法人日本補聴器工業会

後援：公益財団法人テクノエイド協会協力：EHIMA（欧州補聴器工業会）

JapanTrak2018

http://www.hochouki.com/files/JAPAN_Trak_2018_report.pdf

JapanTrak2015

http://www.hochouki.com/files/JAPAN_Trak_2015_reportv3.pdf

■自己申告による難聴者率&補聴器所有率（普及率）（JapanTrak2018より）

難聴者率(自己申告)日本：11.3%(国内推定約1429万人)※

補聴器使用者率日本：14.4%(国内推定約206万人)※

※総務省統計局2019年1月21日公表の人口推計2018年8月確定値の総人口総人口(確定値)1億2649万人に、今回のアンケート結果の率を乗じたもの。

◆「難聴者の補聴器使用率」欧米（5ヶ国）との比較(JapanTrak2015より)

欧米と比べ人口における「難聴者率」には大差ないものの、

「難聴者の補聴器使用率」を比べると日本は2倍以上低くなってしまっています

補聴器使用率

難聴者率（自己申告）

1位 イギリス：42.4%

イギリス：9.7%

2位 ドイツ：34.9%

ドイツ：12.1%

3位 フランス：34.1%

フランス：9.3%

4位 アメリカ：30.2%

アメリカ：10.6%

5位 日本：13.5%（国内推計約200万人※）

日本：11.3%（国内推計約1430万人※）

※総務省統計局発表の2015年3月1日現在の総人口（確定値）1億2689万人に、今回のアンケート結果の率を乗じたもの。

◆「補聴器の全体満足度」欧米（3ヶ国）との比較(JapanTrak2018より)

フランス（82%）・ドイツ（76%）・イギリス（74%）に比べて日本の満足度は「38%」と低く、補聴器の正し

い購入・装着・ケアにより難聴者の QOL をいかに向上していくかが社会的な課題となっています。

◆性別/年齢別の難聴者及び補聴器所有者（JapanTrak2018 より）

男女共に、65 歳を超えると難聴者の比率が高まり、

75 歳を超えると補聴器所有者の比率が高まる傾向が見られます

| | | |
|-----------|----|--------------------|
| 75 歳以上 | 男性 | 難聴者 40%（補聴器所有者 8%） |
| | 女性 | 難聴者 38%（補聴器所有者 8%） |
| 65 歳～74 歳 | 男性 | 難聴者 16%（補聴器所有者 1%） |
| | 女性 | 難聴者 19%（補聴器所有者 1%） |
| 55 歳～64 歳 | 男性 | 難聴者 7%（補聴器所有者 0%） |
| | 女性 | 難聴者 10%（補聴器所有者 0%） |

◆難聴者率（難聴またはおそらく難聴だと思っている人の割合）（JapanTrak2018 より）

75 歳以上 39.2%

65 歳～74 歳 17.6%

55 歳～64 歳 8.9%

◆補聴器販売店がどこにあるのかはあまりよく知られていない（JapanTrak2018 より）

補聴器を持っている難聴者と補聴器を持っていない難聴者では補聴器販売店がどこにあるかわかる方の割合が約 2 倍の違いが出ています

あなたのお住いの近くに補聴器販売店はありますか？

補聴器非所有の難聴者 分かりません 41% いいえ 21% はい 38%

補聴器所有者 分かりません 9% いいえ 23% はい 68%

◆難聴者の 12% ～14% が「認知症」「うつ病」が難聴と関係していると思っている （JapanTrak2018 より）

腰痛・肩こり 18%

認知症 14%

睡眠障害 14%

うつ病 12%

高血圧 11%

視覚障害 7%

糖尿病 6%